

＜今日の説教のポイント 創世記 32 章 2～33 節＞

兄エサウとの再会が近づく中で恐れおののくヤコブの姿が見事に記されています。しかし見るべきはそれだけではありません。

①神様がヤコブに現れられる！

最初に短く神様がヤコブに現れられたことが記されています。ここでヤコブが何をつかんだかが大事です。「**ここは神の陣営だ**」(3)の「陣営」は、22 節の「野营地」と訳された語と同じヘブル語ですから、ヤコブはこの箇所が出来事の最後まで神様を強く意識していたということになります。それは 28 章で現れられてヤコブに「**あなたと共にいる。あなたを守り、あなたを連れ帰る**」(28:15)と言われた神様です。

②だのにエサウに対する恐れがなぜ去らない？ だからこそ祈る！

しかし、ヤコブのエサウに対する恐れはこの神様と出会った後も変わらないように思えます。「なぜ？」と思うかもしれませんが、私たちなら変わるでしょうか？ むしろ、そのような恐れの中でヤコブが神様に向かって祈ったこと、しかも前に神様が約束されたことを思い出しながら祈ったことに学びたいと思います。どんな状況に置かれても、神様が約束されたことに信頼を寄せて立ち続ける。それが信仰だからです。

③ヤコブはエサウに自分の罪を悔いている！

エサウに対して行った自分の罪をヤコブが認めて謝る言葉が出て来ていないような気がするかもしれません。しかし、「**贈物を先に行かせて兄をなだめ、その後で顔を合わせれば、恐らく快く迎えてくれるだろうと思ったのである**」(21)と訳されている表現はそれを表しています。過度に思われる彼の低姿勢もすでにそのことを示しているのです。

④神様との格闘、その意味は？ 神による赦しが得られた確信！

では、23 節以下の出来事は何を意味しているのでしょうか？ 格闘の末、神様は「**ヤコブを祝福し**」(30)、ヤコブは「**なお生きている**」(31)と言いました。ヤコブは神様から赦されたことの確信を得たのです！それは痛みを伴い、その痛みによって繰り返し覚え直せる確信でした(32)。主イエスの十字架による救いの確信を思わずにおれません。